

宮坂建設工業札幌支店が防災推進会議

意思疎通と協力関係で 安全、品質管理徹底を誓う

宮坂建設工業(帯広)の札幌支店(佐々木勝幸支店長)は十三日、札幌サンプラザで二七年度防災推進会議を開き、参加者全員で労働災害の絶無を誓った。写真。

帯広本店の防災推進会議(十七日)に先立つ開催。本支店役員六十人と協力会社二百社から三百人の合わせて三百六十人が参加した。



また、安全で働きやすい環境づくりの重要性を強調。人命尊重の精神で「ことし一年間の無事故・無災害の達成のため、予防安全の徹底による安全対策、品質管理の徹底

強化を今以上に推進する」と誓った。

佐々木支店長はまた、支店として「すべての業務でワンランク・アップの仕事を目指す」と宣言。そのために「危険因子を排除し、より安全な職場・作業環境づくりを進めていく」とし、協力会社の理解と協力を求めた。

優秀協力会社、職長の安全表彰に続き、札幌中央労基署・鈴木力安全衛生課長、札幌方面北警察署・屋代芳彦交通官や、札幌市消防局の担当者が講話。同社の有川進副社長(総括安全衛生管理者)が労働安全衛生方針等を説明し、全員で安全第一の基本を再確認した。

鈴木氏は「起きた災害を踏まえ対策を立てる時代ではなくなる。ウチの現場はこう取り組んでいるので無災害なんだ」ときちんと説明できるよう、リスクアセスメントの取組をしっかりとやらなければ」と訴えた。

屋代氏は昨年の道内の交通事故死者が六十五年ぶりに百七十人を下回ったと説明する一方で、「飲酒運転による死亡事故は全国ワーストの不名誉な数字」と指摘。小樽ドリームビーチ近くでの飲酒運転事故などを例に、運転モラルの確立を呼びかけた。

同社札幌支店は従来の「安全研修会」を二十二年度から防災推進会議に切り替えた。

協力会社も一丸で 危険因子を排除

宮坂建設工業
札幌支店が

宮坂建設工業(本社・帯広)は13日、札幌サンプラザで札幌支店防災推進会議を開いた。協力会社を含む約360人が、資質と能力の向上で無事故無災害を達成しようと誓い合った。写真。



冒頭、宮坂寿文社長のメッセージを伝えた佐々木勝幸支店長は「みんなでもっと良い仕事を、という社長方針の下、支店機能を強化し、職員と協

力会社一丸で危険因子を排除していかう」と呼び掛けた。

来賓講話で、札幌中央労基署の鈴木力安全衛生課長は「なぜ無災害か。その理由を考えることがリスクアセス時代の対策」と強調。安全措置の深化を呼び掛けた。

この後、警察や消防の担当者が交通事故や火災防止のポイントを解説。有川進副社長が労働安全衛生方針を周知した。

宮坂建設工業が防災推進会議開く 安全対策の徹底強化を 450人参加 ゼロ災達成誓う

【帯広発】宮坂建設工業(株)(帯広、宮坂寿文社長)は十七日、帯広市内の北海道ホテルで、防災推進会議を開催した。同社社員と協力会社合わせて約四百五十人が参加し、出席者全員で「ことし一年間の無事故・無災害を誓った」写真。

はじめに、高道伸常務が宮坂社長のメッセージを代読。「企業として総合力の向上を図るためには、社員間はもとより協力会社の皆さんとのコミュニケーションや連携が重要。互いの明確な意思の疎通と協力関係の調整が行われてこそ、企



業の安定や成長につながる」と述べた。

また、「それぞれが良い会社となるためには、安全上に推進していきたい」と呼びかけた。

続いて、企業表彰と職長表彰では、有川進執行役員

で働きやすい環境づくりが大切。人命尊重第一の精神で、ことし一年間の無事故・無災害の達成に向けて、予防安全の徹底による安全対策、品質管理の徹底強化を今以上に推進していきたい」と述べた。

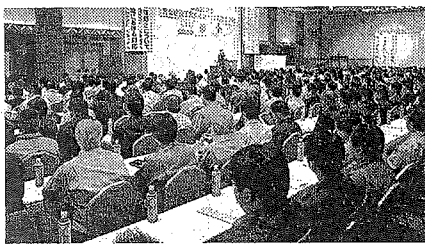
このあと、釧路方面帯広警察署の赤岡義幸交通官北海道警視が「交通事故防止について」、帯広市消防署の川元一夫よぼう普及課長消防司令長が「災害現場における対応」についてそれぞれ講話。このほか、有川執行役員副社長が「労働安全衛生方針・労働安全衛生マネジメントシステム」について説明した。

防災推進会議で 災害ゼロ誓う

宮坂建設工業

【帯広】宮坂建設工業(本社・帯広)は17日、市内の北海道ホテルで2015年度防災推進会議を開いた。写真。協力会社を含め約450人が参加し、目標に掲げた災害ゼロの達成を誓った。

冒頭で高道伸常務が宮坂寿文社長のメッセージを代読。「よりよい会社となるためには安全で働



きやすい環境づくりが大切。予防安全や品質管理

の徹底強化を今以上に推進する」を伝えた。協力会社や職長への安全表彰の後、帯広警察署の赤岡義幸交通官が講話。4日に芽室町内で発生したトレーラーと普通車の出会い頭の事故を挙げ、「防衛運転を心掛けて」と呼び掛けた。